

## 外来生物をテーマとしたイベント例

いきものふれあい室では、様々な外来種をとりあげイベントを開催しています。今、琵琶湖で大きな問題となっているオオバナミズキンバイは、真冬に越冬芽で冬を越す様子から花の時期で、四季を通してイベントを開催してきました。水面に伸びる茎は10m程にもなり、先端に枯れない芽がしっかりとついている様子は、参加者に大きな衝撃をあたえました。

ヌートリアは、県内での目撃が徐々に増加している生きものです。外来種の対応はとにかく期に行うことが重要で、より多くの目による監視が必要です。7匹もの個体が捕獲された大府で現地観察会を行い、専門家による講演会を開催しました。

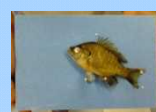
### 「カヌーに乗ってオオバナミズキンバイの花を観察しよう」

琵琶湖で大問題となっているオオバナミズキンバイをカヌーに乗って観察会をしました。どんな植物なのか？琵琶湖にどんな影響があるのか？カヌーの練習をしながら、ちょうど花期を向かえたオオバナミズキンバイをじっくり観察しました。



### 「ブルーギル釣りとお刺身作り」

近年、琵琶湖には、元々いなかった外来魚が増えます。数が増え、琵琶湖固有の魚やエビなど食ってしまうため、特定外来生物とされているブルーギルを釣り、釣った魚をお刺身にしました。



### 「親子でデイキャンプ 外国からきた植物で染める」

滋賀県が誇る琵琶湖は、湖だけでなく、その周りの環境も多様です。琵琶湖のことを知るため、湖岸周辺の自然を観察し、湖岸の植生の多くを占める外来種で草木染をしました。



### 「知っておきたいヌートリアの生態」

近年目撃情報が増えてきているヌートリア。爆発的に増えて自然植生や農作物に影響を与える特定外来生物です。ヌートリアの問題に取り組んできた岡山自然保護センター森生枝氏から、ヌートリアの生態問題についての講義を受けました。



### 「アライグマの爪痕を探そう」

柱を垂直に登ることのできる中型の動物は、アライグマ、ハクビシン、テンなどがありますが、その中で柱に爪痕を残す動物はアライグマだけです。このことを利用して、建物での爪痕調査を行い、併せてねぐらや餌場などの調査を行うことで、アライグマの生息の状況を知ることができます。

